

# 神戸学院大学 第2次中期行動計画 中期計画(第3層) 2022年度達成度評価表 分野:教育

|      |                               | 評価 | 理由   |
|------|-------------------------------|----|--|
| 中期目標 | 三つのポリシーに基づき、学生の成長を促す教育を実践します。 |    |  |
| 中期計画 | 1 学士課程教育の質的向上の推進              | B  | 三つのポリシーに基づく恒常的なPDCAの実施においては、全学教育推進機構を中心として改革が進み、特に大学全体レベルのカリキュラム・アセスメントが承認されたことは長所である。また、心理学部において、FD研修会において組織的な検討を行い、各種ガイドランスやHP等で学生やステークホルダーに対する周知を徹底できている点も長所にあげられる。さらに、経済学部における充実したアクティブ・ラーニングや、薬学部における研究活動の活性化は他学部においても推奨できる取組みであり、長所と認められる。2023年度以降は、さらなる教育の充実に向けて、科目数の適正化やナンバリング等にかかる課題が解決することを期待する。 |
|      | 2 大学院課程の改善                    | B  | 本学大学院は、研究科によっては定員充足率が低く、厳しい状況が続いているものの、大学院課程の大きな改善には至っていない。このような状況ではあるが、大学院全体における改善に向けた取組みとして、2022年度より共通科目を設置することができた。各研究科においても改善に向けた取組みが進んでおり、特に栄養学研究科においては、学部との連携によって学部学生に修士論文発表会への参加を促す等、魅力を伝える機会を増やすことで定員充足率の改善につなげている点は、長所である。今後も大学院課程については、各研究科における取組みのみならず、全学的に具体的方策を検討していく必要がある。                   |
|      | 3 全学教育推進機構の整備充実               | B  | キャリア教育の一環である「課外講座・資格サポート」について、学生のニーズの変化を察知し、開講体制の再構築を行い、2023年度以降にスタートする新体制の準備を進められたことは評価できる。新体制においても、学生に対して適切な動機付けのもと受講を促すとともに、学生の声を聴きながらよりよいサポートの継続を期待する。また、キャリア教育センターとキャリアセンターとの連携は不可欠であることから、今後も情報交換を行い、学生にとってよりよいキャリア教育の実施が望まれる。   |
|      | 4 FD活動の促進                     | B  | 専任教員のFD活動への参加率は100%を達成し、コロナ禍で制限がある中にもかかわらず、様々な工夫により実施されており、評価できる。特に、心理学部では1か月に1回のペースでFD活動を実施しており、学部における課題の共有や活発な意見交換がなされ、課題解決につながっている点は長所である。一方で、一部の学部及び研究科においては、学部あるいは研究科独自のFDが実施されておらず、改善が必要である。2023年度以降、FDの意義を再確認し、全ての組織において実質的なFDの活動が推進することを期待する。  |

神戸学院大学 第2次中期行動計画 中期計画(第3層) 2022年度達成度評価表 分野:教育

|      |                               | 評価 | 理由  |
|------|-------------------------------|----|---|
| 中期目標 | 三つのポリシーに基づき、学生の成長を促す教育を実践します。 |    |   |
| 中期計画 | 5 教育環境の整備充実                   | B  | コロナ禍の影響による授業形態の変更に伴い整備が進んだネットワーク環境について、2022年度は利用状況の把握や問題点の抽出、データの蓄積等、検証が進んだものと評価できる。引き続きBYODを見据え、情報環境の整備充実に取り組むことを期待する。また、2022年11月には大きなトラブルもなく新事務(教務)システムに移管することができている。今後は全機能の稼働とその検証が進むことを期待する。                    |
|      | 6 教育のグローバル化推進                 | B  | コロナ禍が続き、制限が残る中においても、オンラインシステム等を用いて海外の協定大学や諸機関との交流活動を継続できていると評価できる。また、本学学生の海外への留学状況もコロナ禍以前の水準まで回復し、海外からの学生の受け入れも再開できている。今後予想される留学及び海外との交流の全面的な再開に向けた準備をはじめ、留学先となる海外の大学の拡大、質の高い国際交流プログラムの提供に向けた準備等がより一層推進されることを期待する。  |
|      | 7 アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜制度の見直し | B  | 入学者選抜方法の妥当性の検証結果に基づき、全ての入試選抜区分の入学者選抜方法や募集定員等の変更の必要性について検討し、見直しが進んだ。その結果、総合リハビリテーション学部における新たな入学試験制度の導入(2024年度より)及び薬学部における入学試験科目の変更(2025年度より)が決定したことは評価できる。今後も積極的な広報活動に努め、志願者及び入学者確保に結びつくことが望まれる。                     |
|      | 8 附属中学校・高等学校との連携推進            | C  | 附属中学校・高等学校の生徒に対して、大学紹介や連携授業、キャンパスツアー等の連携事業を実施し、本学への進学につながる意識の醸成を図ることができている。また、入学予定者に対して、スクーリングによる入学前指導を実施することで、大学生活への準備につながっており、評価できる。しかし、様々な中高大連携事業の取組みに関する情報発信においては、工夫されているもののまだ課題が残っているため、今後も引き続いて検討を重ねることを期待する。 |

神戸学院大学 第2次中期行動計画 中期計画(第3層) 2022年度達成度評価表 分野:教育

|      |                               | 評価 | 理由   |
|------|-------------------------------|----|--|
| 中期目標 | 三つのポリシーに基づき、学生の成長を促す教育を実践します。 |    |  |
| 中期計画 | 9 教職課程教育の質的向上の推進              | B  | 教職課程を履修し教員を目指す学生に対して様々なサポートを行うため、教職課程を担当する教員と教職教育サポート室指導員間の連携強化が図られており、評価できる。特に、コロナ禍でありながら対面での教員採用試験対策講座を実施できたこと及びメンター制度の活用ができたことは、学生にとって大きなサポートとなっているため、今後も継続していきたい取り組みである。2023年度以降も教員免許状取得者及び教員採用試験合格者の増加に向けて、さらなる取組みの継続及び発展を期待する。   |
|      | 10 全学的なデータサイエンス教育の充実          | A  | 設定している「活動目標・指標」において、1年次後期科目「データサイエンス(遠隔オンデマンド)」の合格率以外は、それぞれ目標値を上回ったことは評価できる。「データサイエンス(遠隔オンデマンド)」の合格率が低くなった要因として、「オンデマンド授業による学修継続の困難さ(対面と比べ重要な点がわかりにくい、集中を持続するのが難しい、等)」が挙げられているが、その困難さの原因分析及び具体的な克服方法に関する(学生のモチベーションの維持・向上を含む)、更なる検討が望まれる。履修者数の多さは、学びのニーズの高さの表われであると考えられるので、一層の改善と発展の取組みに期待したい。 |

評価 S:目標よりはるかに上回る、A:目標をやや上回る、B:おおむね目標どおり、C:目標をやや下回る、D:目標をかなり下回る